

D13 深層インタラクション

アバター共生社会企業コンソーシアム

概要

アバター共生社会プロジェクトでは、人がサイバネティックアバター(CA)を使って自在に活躍する社会(アバター共生社会)の実現を目指しています。ここでは研究開発と並行して進めている社会実装のための取り組みとして、実社会実証実験とアバター共生社会企業コンソーシアム(C-CAS2)について紹介します。

特徴

- CAの社会実装を検討するために、実社会でCAを活用する実証実験を実施しています。様々な業種・業態をCAX(サイバネティックアバートランスフォーメーション)することによる利点や問題点を実験で試しています。
- CAのサービスや遠隔操作を実際に一般市民のみなさんに体験してもらい社会受容性を調査する体験型実証実験も実施しています。2024年9月には、体験型実証実験『アバターランド』を、JAM BASE(グラングリーン大阪、大阪市北区大深町)にて実施しました。
- アバター市場の創出と、関連企業と本プロジェクトの研究者との共同研究を促進するため、アバター共生社会企業コンソーシアム(会員数:145法人(2024年8月末現在))を設立・運営しています。

今後の展開

- アバター共生社会企業コンソーシアムを通じて関連企業との密な連携を図り、CAを社会実装するために必要になる社会制度を検討し、日本および世界に提案していくとともに、CAXによる新しい事業の創出を図ります。

テーマ「万博、そしてその先へ～科学技術が描く未来～」との関連

- 誰もが自在に活躍できるアバター共生社会を、体験型実証実験を通じて、研究者・企業・市民が先取りして体験し、この未来の是非を考えること(バックキャストिंग)によって、みなさんとともに明日の社会を拓いていきます。



アバター共生社会企業コンソーシアム

Corporate Consortium for Avatar Symbiotic Society

(会員数:145 法人(2024年8月末現在))

ヘルスケア・医療分科会 教育分科会 ITインフラ分科会
街づくり分科会 FA分科会